

薔薇：和歌：文苑

著者	章鳳, 芒村
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 1 2
ページ	4 4 - 4 5
発行年	1905-06-19
URL	http://hdl.handle.net/2298/5841

試みの野に導くと

一條見ねぬ矢を放ち

行く手はるけき東の

しるべの星を砕きたり

(卅八年月廿一日)

和歌

○ 薔 薇

章

鳳

あこれの三人に歌の幸なくて小き花の室は冷ねゆく
 小きを我天地と思ひては歌の領足る鉢植うばら
 朝あけや我が室はたゞ香にゆるくうばら一もと歌にさめしか
 血のゆらぎ香のゆらぎいづれ紅や薔薇を讃じて笑む子は二十
 ともすれば悶ね心の寂莫に口つけて見る涙なくして
 詩の興に夜のしじまを身にしめて獨笑まひを紅にみる
 歌のほまれいづれ我が身にあるべしと告げ給はばや紅うばら

○ 大輪の紅落ちて夜たけぬ天に歸るのその香ゆらゆら
 西にしては女王に誇る紅をさびし此春歌にふさはじ
 舞姫の驕りの色に抱かれて短かき生を笑むかくれなる

○

芒

村

行春の雨なくめなる夕暮を音なく薔薇の花くづれゆく
 人の世のきよけき戀をそめいでふあしたなつかし紅うはら
 くだけゆく朝の露にひびきありかくてうばらの色なからずや
 大空の御苑の春の月姫が白日まひるの夢の色か白薔薇

青海長雲暗雪山
 黄沙百戰穿金甲

孤城遙望玉門關
 不破樓蘭終不還

(王昌齡)

